

世界ハイブリッド証券ファンド通貨選択シリーズ (毎月分配型)

<円コース><豪ドルコース><ブラジルリアルコース><中国元コース>

追加型投信／内外／債券

受益者の皆さまへ

毎々格別のお引立てに預かり厚くお礼申し上げます。

各ファンドは、主として円建ての外国投資信託への投資を通じて、先進国の金融機関が発行したハイブリッド証券に実質的な投資を行い、信託財産の成長を図ることを目的として、積極的な運用を行いました。

ここに、運用経過と償還内容をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

作成対象期間 2019年10月24日～2020年1月23日

第118期	決算日：2019年11月25日
第119期	決算日：2019年12月23日
第120期	償還日：2020年1月23日

償還日 (2020年1月23日)		
	<円コース>	<豪ドルコース>
償還価額	7,127.61円	6,122.37円
純資産総額	547百万円	58百万円
第118期～ 第120期	騰落率	△0.5%
	分配金合計	40円
	<ブラジルリアルコース>	<中国元コース>
償還価額	3,666.93円	9,883.91円
純資産総額	364百万円	160百万円
第118期～ 第120期	騰落率	3.9%
	分配金合計	80円

(注1) 騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率を表示しています。

(注2) △ (白三角) はマイナスを意味しています (以下同じ)。

当ファンドは投資信託約款において、運用報告書(全体版)を電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記のホームページにアクセスし、「基準価額一覧」等から当ファンドの名称を選択いただき、ファンドの詳細ページから閲覧、ダウンロードすることができます。また、運用報告書(全体版)は受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

■運用報告書に関するお問い合わせ先

コールセンター **0120-104-694**

(受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで)

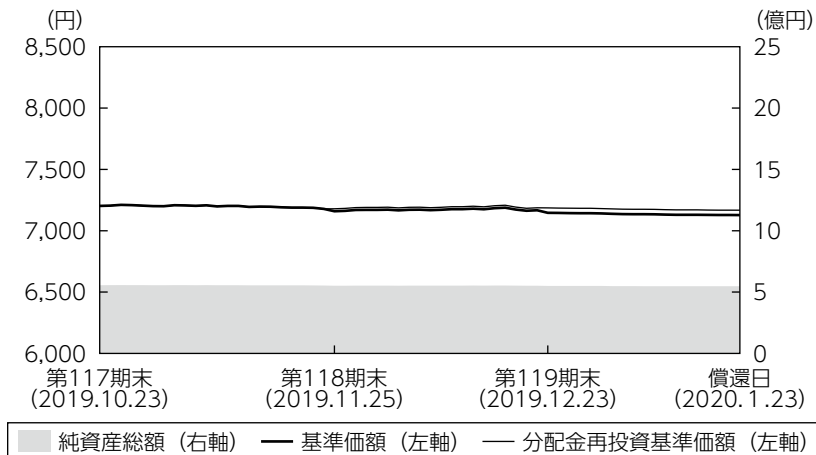
お客さまのお取引内容につきましては、購入された販売会社にお問い合わせください。

アセットマネジメントOne 株式会社

東京都千代田区丸の内1-8-2 <http://www.am-one.co.jp/>

運用経過の説明

基準価額等の推移



第118期首： 7,202円
 償還日： 7,127.61円
 (既払分配金40円)
 騰落率： △0.5%
 (分配金再投資ベース)

- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、期首の基準価額に合わせて指数化しています。
- (注4) 当ファンドはベンチマークを定めておりません。

基準価額の主な変動要因

当作成期については、米中通商協議の進展、英国総選挙での保守党勝利などを背景に投資家のリスク選好姿勢が強まり、主要先進国の国債利回りが上昇（価格は下落）したことがマイナスに寄与し、基準価額は下落しました。一方、投資家のリスク選好姿勢の強まりを受け、ハイブリッド証券の信用スプレッドが縮小したことはプラスに寄与しました。

また、当ファンドは設定来で18.9%上昇しました（分配金再投資ベース、設定来の分配金4,440円）。グローバル経済の緩やかな回復および抑制されたインフレ環境の下、主要先進国の中央銀行が緩和的な金融政策を実施したことを受け、主要先進国の国債利回りが低下したことがプラスに寄与しました。米国の主要株価指数が史上最高値の更新を続ける等、投資家のリスクセンチメントが堅調に推移する中、ハイブリッド証券の信用スプレッドが縮小したこともプラスに寄与しました。

◆組入ファンドの当作成期間の騰落率

組入ファンド	騰落率
ダイヤモンドフィナンシャルセキュリティーズファンドクラス（JPY）	△0.1%
DIAMマネーマザーファンド	△0.1%

- (注1) ダイヤモンドフィナンシャルセキュリティーズファンドクラス（JPY）の騰落率は、分配金を再投資したものとみなして計算したものです。
- (注2) 組入ファンドの騰落率は、当ファンドが保有していた期間（ダイヤモンドフィナンシャルセキュリティーズファンドクラス（JPY）は2020年1月14日まで、DIAMマネーマザーファンドは2020年1月17日まで）の騰落率です。

1 万口当たりの費用明細

項目	第118期～第120期		項目の概要
	(2019年10月24日 ～2020年1月23日)		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	25円	0.345%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は7,168円です。 投信会社分は、信託財産の運用、運用報告書等各種書類の作成、基準価額の算出等の対価 販売会社分は、購入後の情報提供、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価 受託会社分は、運用財産の保管・管理、投信会社からの運用指図の実行等の対価
(投信会社)	(9)	(0.127)	
(販売会社)	(15)	(0.207)	
(受託会社)	(1)	(0.011)	
合計	25	0.345	

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

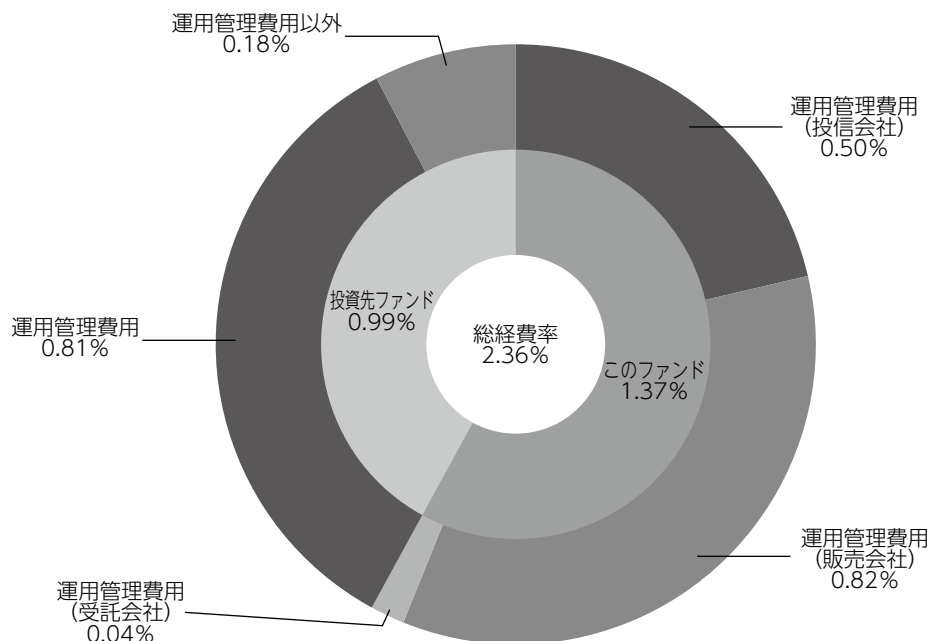
(注3) 比率欄は「1 万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(注4) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く）が支払った費用を含みません。

(参考情報)

◆総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は2.36%です。



総経費率 (①+②+③)	2.36%
①このファンドの費用の比率	1.37%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.81%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.18%

(注1) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

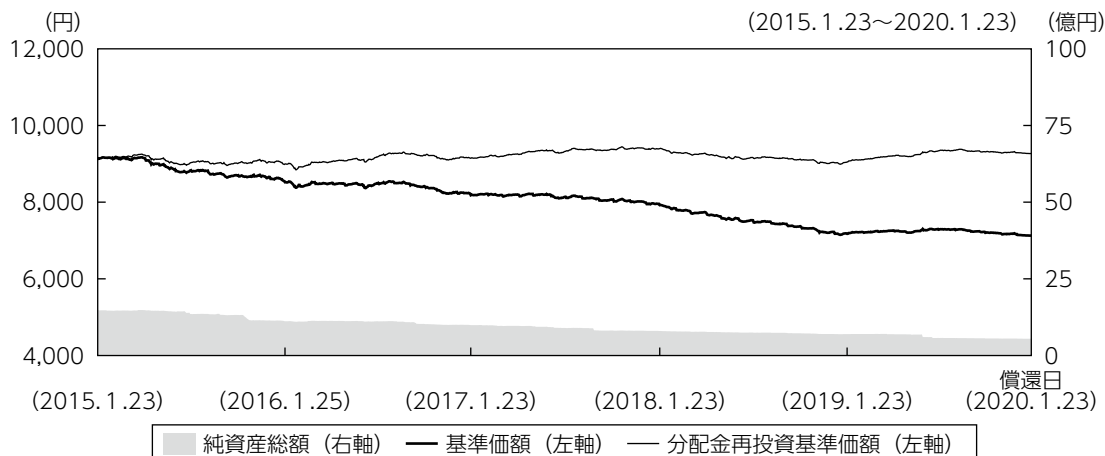
(注4) 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

最近5年間の基準価額等の推移



(注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

(注3) 分配金再投資基準価額は、2015年1月23日の基準価額に合わせて指数化しています。

	2015年1月23日 期首	2016年1月25日 決算日	2017年1月23日 決算日	2018年1月23日 決算日	2019年1月23日 決算日	2020年1月23日 償還日
基準価額 (分配落) (円)	9,110	8,520	8,182	7,923	7,174	(償還価額) 7,127.61
期間分配金合計 (税引前) (円)	—	480	480	480	460	220
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	—	△1.3	1.7	2.7	△3.7	2.4
純資産総額 (百万円)	1,483	1,117	990	798	697	547

(注) 当ファンドのコンセプトに適した指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指標を定めておりません。

設定来の投資環境

ハイブリッド証券市場は上昇しました。グローバル経済の緩やかな回復および抑制されたインフレ環境の下、主要先進国の中央銀行が緩和的な金融政策を実施したことを受け、主要先進国の国債利回りは低下しました。米国の主要株価指数が史上最高値の更新を続ける等、投資家のリスクセンチメントが堅調に推移したこと、国債利回りが低下を続ける中で投資家が高い利回りを求める動きが強まったことから、信用スプレッドは縮小しました。

国内短期金融市場では、3ヵ月物国庫短期証券利回りは△0.4%台から0.1%台で推移しました。日銀はリーマンショック以降の景気低迷を受けて金融緩和政策を続けており、長短金利ともに低下傾向で推移しました。さらに2016年にはマイナス金利政策が導入されたことで、短期金利には一段と低下圧力がかかることになりました。

設定来のポートフォリオについて

●当ファンド

ダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス（J P Y）の組入比率は原則として高位を維持し、D I A Mマネーマザーファンドへの投資も行いました。

●ダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス（J P Y）

世界の主要金融機関が発行するハイブリッド証券を中心にポートフォリオを構成しました。投資方針については、発行体の業績動向や信用力に加えて、ハイブリッド証券特有のリスクを評価し、分散投資を基本としました。国別配分においては、クレジットの安定的な発行体の多い、フランス・米国・英国のウェイトを高く維持しました。債券種別においては、期限付劣後債中心のポートフォリオとしました。

また、ユーロ、米ドルなど複数通貨（以下、「原資産通貨」といいます。）を売り予約し、円を買い予約する為替取引を行いました。

●D I A Mマネーマザーファンド

残存期間の短い国債や政府保証債、地方債などで運用を行いました。

■ 分配金

当作成期の収益分配金につきましては運用実績等を勘案し、以下の表の通りとさせていただきます。なお、収益分配金に充てなかった利益は信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたしました。

■ 分配原資の内訳（1万口当たり）

項目	第118期	第119期
	2019年10月24日 ~2019年11月25日	2019年11月26日 ~2019年12月23日
当期分配金（税引前）	20円	20円
対基準価額比率	0.28%	0.28%
当期の収益	20円	20円
当期の収益以外	-円	-円
翌期繰越分配対象額	263円	265円

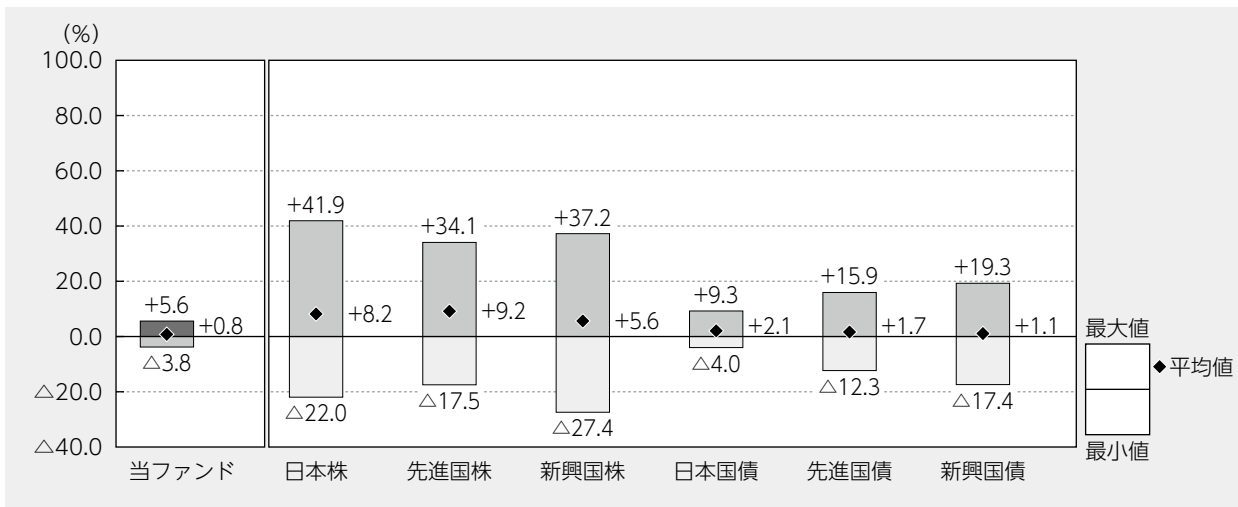
- (注1) 「当期の収益」および「当期の収益以外」は、小数点以下切捨てで算出しているためこれらを合計した額と「当期分配金（税引前）」の額が一致しない場合があります。
- (注2) 当期分配金の「対基準価額比率」は「当期分配金（税引前）」の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。また、小数点第3位を四捨五入しています。
- (注3) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益（含、評価益）」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備積立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

このたび償還を迎えるにあたりまして、当ファンドへのご愛顧に心より感謝申し上げますとともに、今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／債券
信託期間	2010年1月20日から2020年1月23日までです。
運用方針	信託財産の成長を図ることを目的として、積極的な運用を行います。
主要投資対象	主として円建ての外国投資信託である「ダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス（J P Y）」の投資信託証券へ投資を行います。また、証券投資信託である「D I A Mマネーマザーファンド」受益証券への投資も行います。なお、短期金融商品等に直接投資する場合があります。
運用方法	主として円建ての外国投資信託への投資を通じて、先進国の金融機関（*1）が発行したハイブリッド証券（*2）に実質的な投資を行います。外国投資信託への投資比率は、原則として高位を保ちます。 （*1）金融機関に関連する特別目的会社を含みます。 （*2）ハイブリッド証券とは、普通社債と株式の中間的特性を有する有価証券であり、劣後債、優先出資証券などをいいます。 外国投資信託においては、ユーロ、米ドルなど複数通貨（以下、「原資産通貨」といいます。）建てのハイブリッド証券に投資しますが、この「原資産通貨」を売り予約し、円を買い予約する為替取引を行います。
分配方針	決算日（原則として毎月23日。休業日の場合は翌営業日。）に、経費控除後の利子配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、基準価額水準、市況動向等を勘案して、分配金額を決定します。原則として利子配当等収益等を中心に安定分配を行うことを基本とします。ただし、分配対象額が少額の場合は分配を行わない場合があります。また、毎年1月および7月の決算時には、上記安定分配相当額に委託会社が決定する額を付加して分配する場合があります。 「原則として利子配当等収益等を中心に安定分配を行う」方針としていますが、これは、運用による収益が安定したものになることや基準価額が安定的に推移すること等を示唆するものではありません。また、基準価額の水準、運用の状況等によっては安定分配とならない場合があることにご留意ください。

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



2015年1月～2019年12月

(注1) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を、ファンドおよび代表的な資産クラスについて表示し、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。なお、上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注3) 当ファンドの騰落率は、税引前の分配金を再投資したものと計算しています。

*各資産クラスの指数

日本株…東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株…MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株…MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債…NOMURA-BPI国債

先進国国債…FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国国債…JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースィファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

※各指数については後掲の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

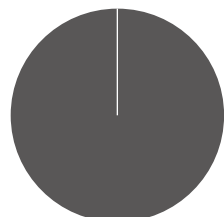
当ファンドのデータ

当ファンドの組入資産の内容（2020年1月23日現在）

世界ハイブリッド証券ファンド通貨選択シリーズ（毎月分配型）＜円コース＞

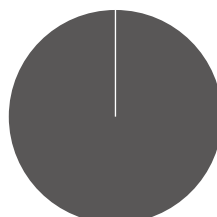
当ファンドに組入れておりました有価証券は作成中に全て売却し、また親投資信託受益証券は作成中に全て解約いたしました。

◆資産別配分



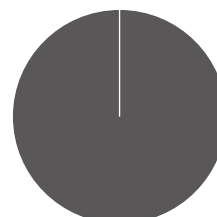
その他
100.0%

◆国別配分



その他
100.0%

◆通貨別配分



その他
100.0%

(注1) 比率は償還時における純資産総額に対する割合です。

(注2) 現金等はその他として表示しています。

純資産等

項目	第118期末	第119期末	償還時
	2019年11月25日	2019年12月23日	2020年1月23日
純資産総額	551,766,904円	550,630,360円	547,644,451円
受益権総口数	770,757,466口	770,527,482口	768,341,820口
1万口当たり基準（償還）価額	7,159円	7,146円	7,127.61円

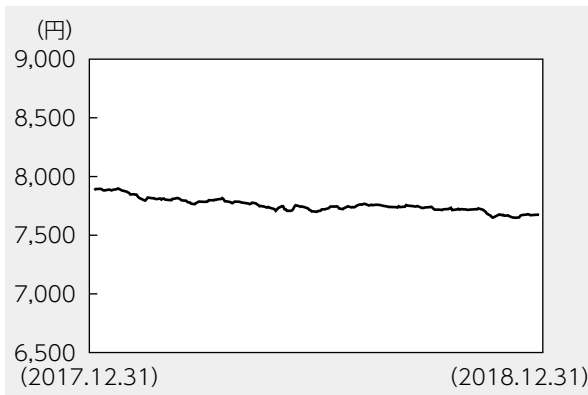
(注) 第118期～償還時における追加設定元本額は132,105円、同解約元本額は3,973,920円です。

組入ファンドの概要

※償還時における組入ファンドはありません。

【ダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス (J P Y)】 (計算期間 2018年1月1日～2018年12月31日)

◆基準価額の推移



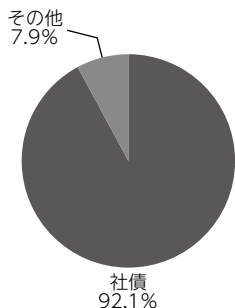
◆組入上位10銘柄

銘柄名	通貨	比率
SKANDINAV ENSKI 05/28/26	ユーロ	3.6%
STANDARD CHART 3.63% 11/23/22	ユーロ	3.6
BPCE 4.63% 07/18/23	ユーロ	3.5
CREDIT AGRICOLE 7.38% 12/18/23	イギリス・ポンド	3.2
SANTANDER ISSUA 2.50% 03/18/25	ユーロ	3.1
SWEDBANK AB FXtoVA 11/22/27 EMTN	ユーロ	3.0
KBC GROUP NV FXtoVA 09/18/29 EMTN	ユーロ	3.0
BANQ FED CRD MU 3.00% 05/21/24	ユーロ	2.9
ABN AMRO BANK N 7.125% 07/06/2022	ユーロ	2.8
SOCIETE GENERAL 4.00% 06/07/23	ユーロ	2.6
組入銘柄数	48銘柄	

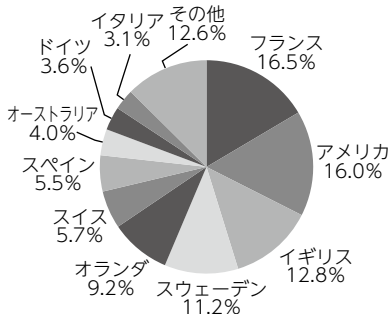
◆1口当たりの費用明細

費用明細については開示されていないため、掲載しておりません。

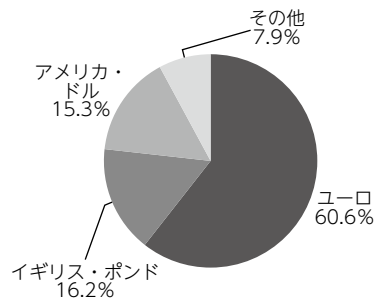
◆資産別配分



◆国別配分



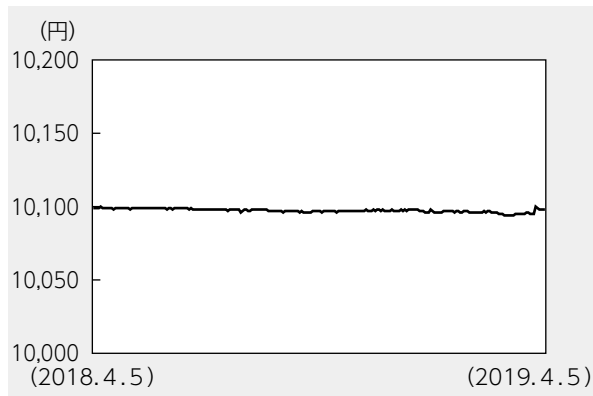
◆通貨別配分



- (注1) 基準価額の推移はダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス (J P Y) の計算期間 (決算日が休日の場合は前営業日まで) のものです。また、分配金を再投資したものとアセットマネジメントOneが作成したものです。
- (注2) 組入上位10銘柄、資産別配分、国別配分、通貨別配分については、ダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンドの決算日 (決算日が休日の場合は前営業日) 現在の状況を表示しております。なお、組入外貨建資産については、ダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス (J P Y) において、「原資産通貨」を売り予約し、円を買い予約する為替取引を行っています。
- (注3) 比率はダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンドの純資産総額に対する組入有価証券評価額の割合です。
- (注4) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。
- (注5) 国別配分については、上位11位以下をその他に含めて集計しています。
- (注6) 組入上位10銘柄、資産別配分、国別配分、通貨別配分のデータは、管理事務代行会社であるMizuho Bank(USA)のデータを基にアセットマネジメントOneが作成したものです。組入全銘柄や費用の総額に関する詳細な情報等については、運用報告書 (全体版) に記載されています。

【D I AMマネーマザーファンド】（計算期間 2018年4月6日～2019年4月5日）

◆基準価額の推移



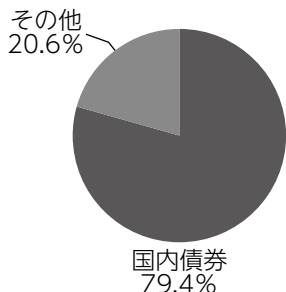
◆組入上位10銘柄

銘柄名	通貨	比率
1 2 3回 利付国庫債券（5年）	日本・円	74.4%
3 9 1回 利付国庫債券（2年）	日本・円	1.2
3 0 1回 利付国庫債券（10年）	日本・円	1.2
3 9 2回 利付国庫債券（2年）	日本・円	0.6
3 8 8回 利付国庫債券（2年）	日本・円	0.6
2 1年度3 5回 兵庫県公募公債	日本・円	0.3
1 1 2回 政保日本高速道路保有・債務返済機構	日本・円	0.2
2 6年度4回 静岡県公募公債	日本・円	0.1
2 7年度2回 千葉県公募公債	日本・円	0.1
2 7年度 京都府京都みらい債	日本・円	0.1
組入銘柄数	22銘柄	

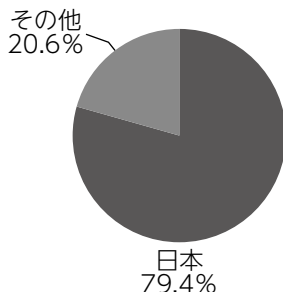
◆1万円当たりの費用明細

項目	当期	
	金額	比率
(a) その他費用 （その他）	0円 (0)	0.000% (0.000)
合計	0	0.000

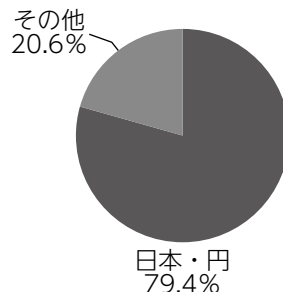
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



（注1）基準価額の推移、1万円当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものであります。

（注2）1万円当たりの費用明細の金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。比率欄は「1万円当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額（10,097円）で除して100を乗じたものです。なお、（a）その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数です。その他は、信託事務の処理に要する諸費用等です。

（注3）組入上位銘柄、資産別配分・国別配分・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

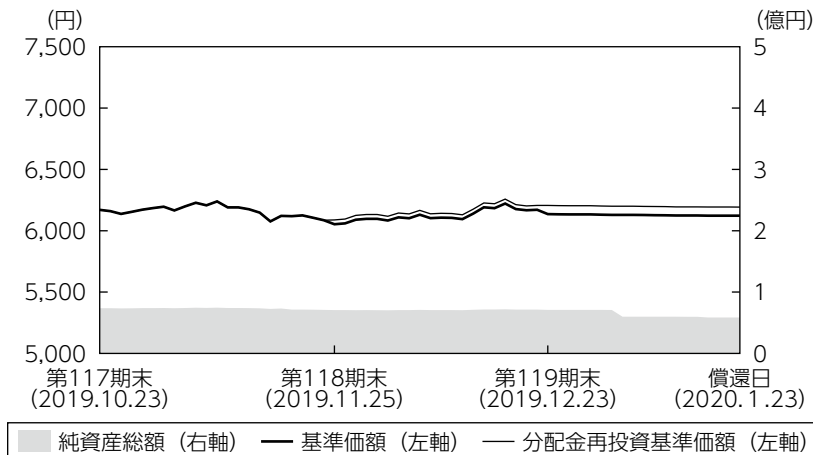
（注4）比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

（注5）現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

（注6）計算期間中の運用経過や組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

運用経過の説明

基準価額等の推移



第118期首： 6,170円
 償還日： 6,122.37円
 (既払分配金70円)
 騰落率： 0.4%
 (分配金再投資ベース)

- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、期首の基準価額に合わせて指数化しています。
- (注4) 当ファンドはベンチマークを定めておりません。

基準価額の主な変動要因

当作成期については、ハイブリッド証券は米中通商協議の進展、英国総選挙での保守党勝利などを背景に投資家のリスク選好姿勢が強まったことから信用スプレッドが縮小したものの、主要先進国の国債利回りが上昇（価格は下落）したため、概ね横ばいとなりました。豪ドルは、投資家のリスク選好姿勢が強まったこと等から対円で上昇し、プラスに寄与しました。また、豪ドルでの為替取引においてプレミアム（豪州と日本の金利差相当分の収益）を獲得したこともプラスに寄与しました。その結果、基準価額は上昇しました。

また、当ファンドは設定来で45.6%上昇しました（分配金再投資ベース、設定来の分配金7,770円）。ハイブリッド証券の信用スプレッドが縮小するとともに、世界的な金利低下を背景に債券価格が上昇したことがプラスに寄与しました。また、豪州の主要輸出品である鉄鉱石等の資源価格の下落や中国の景気減速を受けて、豪州経済の先行きへの不透明感が強まったことから、豪ドルが対円で下落したことはマイナスに寄与しましたが、豪ドルでの為替取引においてプレミアム（豪州と日本の金利差相当分の収益）を獲得したことはプラスに寄与しました。

◆組入ファンドの当作成期間の騰落率

組入ファンド	騰落率
ダイヤモンドフィナンシャルセキュリティーズファンドクラス (AUD)	0.7%
D I A Mマネーマザーファンド	△0.1%

- (注1) ダイヤモンドフィナンシャルセキュリティーズファンドクラス (AUD) の騰落率は、分配金を再投資したものとみなして計算したものです。
- (注2) 組入ファンドの騰落率は、当ファンドが保有していた期間（ダイヤモンドフィナンシャルセキュリティーズファンドクラス (AUD) は2020年1月14日まで、D I A Mマネーマザーファンドは2020年1月17日まで）の騰落率です。

1 万口当たりの費用明細

項目	第118期～第120期 (2019年10月24日 ～2020年1月23日)		項目の概要
	金額	比率	
	(a) 信託報酬	21円	
(投信会社)	(8)	(0.127)	
(販売会社)	(13)	(0.207)	
(受託会社)	(1)	(0.011)	
合計	21	0.345	

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

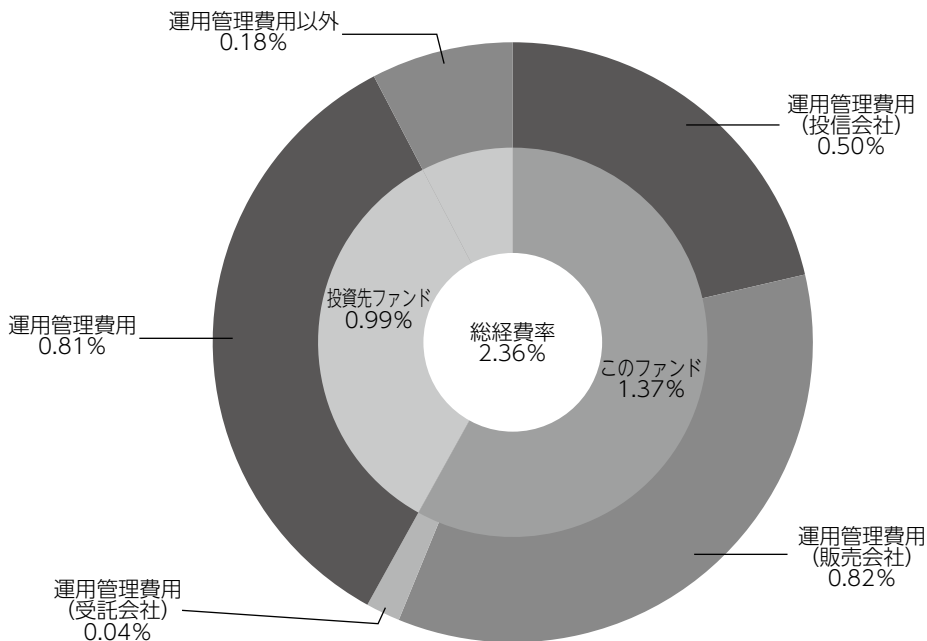
(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(注4) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く）が支払った費用を含みません。

(参考情報)

◆総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は2.36%です。



総経費率 (①+②+③)	2.36%
①このファンドの費用の比率	1.37%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.81%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.18%

(注1) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

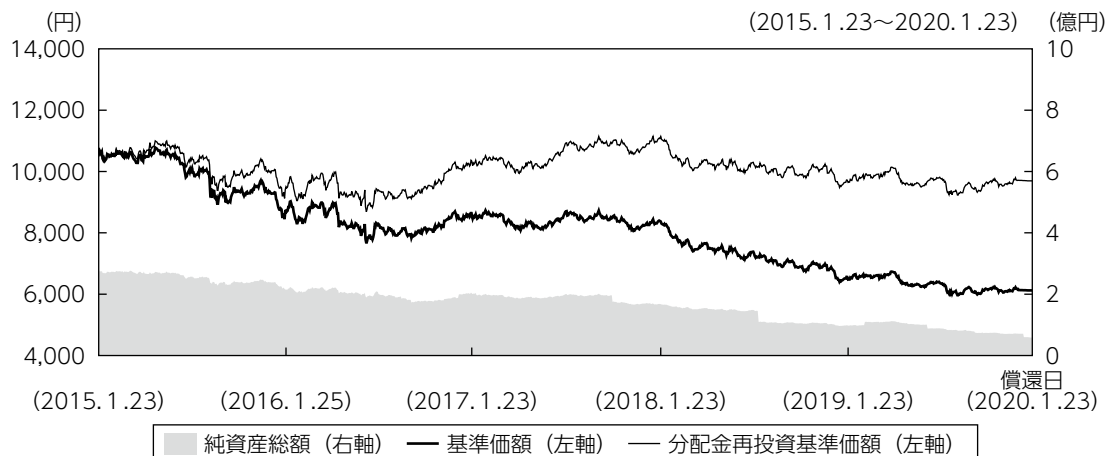
(注4) 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

最近5年間の基準価額等の推移



(注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

(注3) 分配金再投資基準価額は、2015年1月23日の基準価額に合わせて指数化しています。

	2015年1月23日 期首	2016年1月25日 決算日	2017年1月23日 決算日	2018年1月23日 決算日	2019年1月23日 決算日	2020年1月23日 償還日
基準価額 (分配落) (円)	10,770	8,729	8,584	8,370	6,476	(償還価額) 6,122.37
期間分配金合計 (税引前) (円)	—	840	840	840	805	385
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	—	△11.7	8.8	7.8	△13.4	0.5
純資産総額 (百万円)	280	215	202	167	97	58

(注) 当ファンドのコンセプトに適した指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指標を定めておりません。

設定来の投資環境

ハイブリッド証券市場は上昇しました。グローバル経済の緩やかな回復および抑制されたインフレ環境の下、主要先進国の中央銀行が緩和的な金融政策を実施したことを受け、主要先進国の国債利回りは低下しました。米国の主要株価指数が史上最高値の更新を続ける等、投資家のリスクセンチメントが堅調に推移したこと、国債利回りが低下を続ける中で投資家が高い利回りを求める動きが強まったことから、信用スプレッドは縮小しました。

豪ドル/円相場は円高豪ドル安となりました。前半は、緩やかなグローバル経済の回復と安定的に推移する資源価格、日銀による超低金利政策を背景に、豪ドルは対円で上昇しました。その後、豪州の主要輸出品である鉄鉱石等の資源価格の下落や中国の景気減速を受けて、豪州経済の先行きへの不透明感が強まったことに加え、米中貿易摩擦等の地政学リスクの高まり等がマイナス材料となり、豪ドルは対円で下落しました。

国内短期金融市場では、3ヵ月物国庫短期証券利回りは△0.4%台から0.1%台で推移しました。日銀はリーマンショック以降の景気低迷を受けて金融緩和政策を続けており、長短金利ともに低下傾向で推移しました。さらに2016年にはマイナス金利政策が導入されたことで、短期金利には一段と低下圧力がかかることになりました。

設定来のポートフォリオについて

●当ファンド

ダイアム フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス (AUD) の組入比率は原則として高位を維持し、D I A Mマネーマザーファンドへの投資も行いました。

●ダイアム フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス (AUD)

世界の主要金融機関が発行するハイブリッド証券を中心にポートフォリオを構成しました。投資方針については、発行体の業績動向や信用力に加えて、ハイブリッド証券特有のリスクを評価し、分散投資を基本としました。国別配分においては、クレジットの安定的な発行体の多い、フランス・米国・英国のウェイトを高く維持しました。債券種別においては、期限付劣後債中心のポートフォリオとしました。

また、ユーロ、米ドルなど複数通貨（以下、「原資産通貨」といいます。）を売り予約し、豪ドルを買い予約する為替取引を行いました。

●D I A Mマネーマザーファンド

残存期間の短い国債や政府保証債、地方債などで運用を行いました。

■分配金

当作成期の収益分配金につきましては運用実績等を勘案し、以下の表の通りとさせていただきます。なお、収益分配金に充てなかった利益は信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたしました。

■分配原資の内訳（1万口当たり）

項目	第118期	第119期
	2019年10月24日 ～2019年11月25日	2019年11月26日 ～2019年12月23日
当期分配金（税引前）	35円	35円
対基準価額比率	0.57%	0.57%
当期の収益	35円	35円
当期の収益以外	-円	-円
翌期繰越分配対象額	2,352円	2,359円

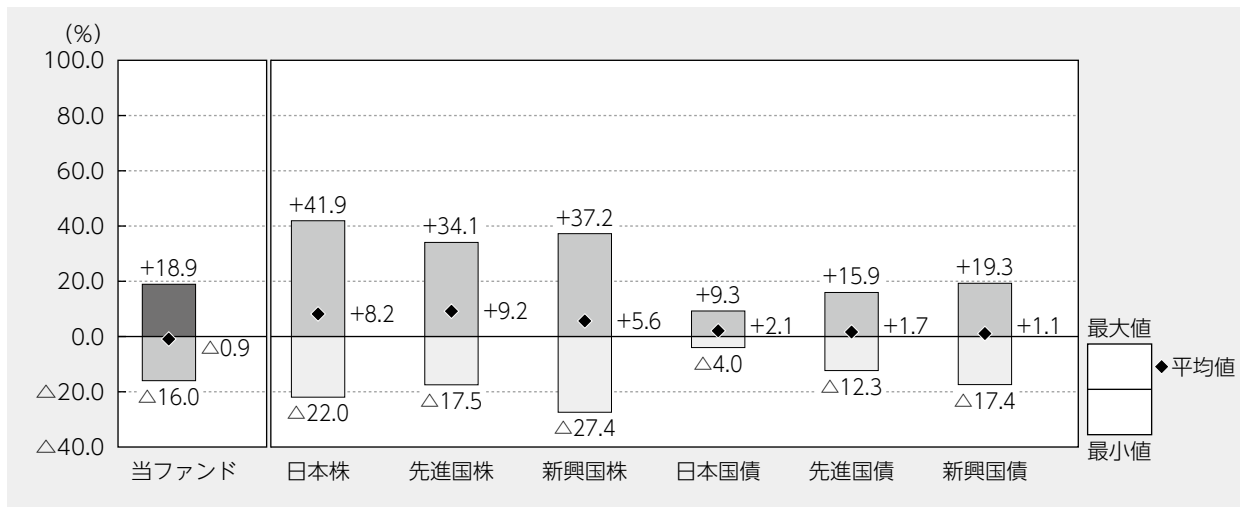
- (注1) 「当期の収益」および「当期の収益以外」は、小数点以下切捨てで算出しているためこれらを合計した額と「当期分配金（税引前）」の額が一致しない場合があります。
- (注2) 当期分配金の「対基準価額比率」は「当期分配金（税引前）」の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。また、小数点第3位を四捨五入しています。
- (注3) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益（含、評価益）」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備積立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

このたび償還を迎えるにあたりまして、当ファンドへのご愛顧に心より感謝申し上げますとともに、今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／債券
信託期間	2010年1月20日から2020年1月23日までです。
運用方針	信託財産の成長を図ることを目的として、積極的な運用を行います。
主要投資対象	主として円建ての外国投資信託である「ダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス (AUD)」の投資信託証券へ投資を行います。また、証券投資信託である「DIAMマネーマザーファンド」受益証券への投資も行います。なお、短期金融商品等に直接投資する場合があります。
運用方法	<p>主として円建ての外国投資信託への投資を通じて、先進国の金融機関(*1)が発行したハイブリッド証券(*2)に実質的な投資を行います。外国投資信託への投資比率は、原則として高位を保ちます。</p> <p>(*1) 金融機関に関連する特別目的会社を含みます。</p> <p>(*2) ハイブリッド証券とは、普通社債と株式の中間的特性を有する有価証券であり、劣後債、優先出資証券などをいいます。</p> <p>外国投資信託においては、ユーロ、米ドルなど複数通貨(以下、「原資産通貨」といいます。)建てのハイブリッド証券に投資しますが、この「原資産通貨」を売り予約し、豪ドルを買い予約する為替取引を行います。</p>
分配方針	<p>決算日(原則として毎月23日。休業日の場合は翌営業日。)に、経費控除後の利子配当等収益および売買益(評価益を含みます。)等の全額を分配対象額とし、基準価額水準、市況動向等を勘案して、分配金額を決定します。原則として利子配当等収益等を中心に安定分配を行うことを基本とします。ただし、分配対象額が少額の場合は分配を行わない場合があります。また、毎年1月および7月の決算時には、上記安定分配相当額に委託会社が決定する額を付加して分配する場合があります。</p> <p>「原則として利子配当等収益等を中心に安定分配を行う」方針としていますが、これは、運用による収益が安定したものになることや基準価額が安定的に推移すること等を示唆するものではありません。また、基準価額の水準、運用の状況等によっては安定分配とならない場合があることにご留意ください。</p>

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



2015年1月～2019年12月

(注1) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を、ファンドおよび代表的な資産クラスについて表示し、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。なお、上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注3) 当ファンドの騰落率は、税引前の分配金を再投資したものと計算しています。

*各資産クラスの指数

日本株…東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株…MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株…MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債…NOMURA-BPI国債

先進国債…FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債…JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースィファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

※各指数については後掲の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

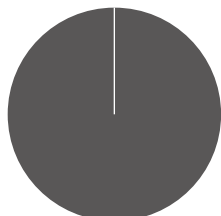
当ファンドのデータ

当ファンドの組入資産の内容（2020年1月23日現在）

世界ハイブリッド証券ファンド通貨選択シリーズ（毎月分配型）＜豪ドルコース＞

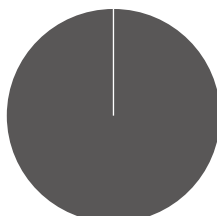
当ファンドに組入れておりました有価証券は作成中に全て売却し、また親投資信託受益証券は作成中に全て解約いたしました。

◆資産別配分



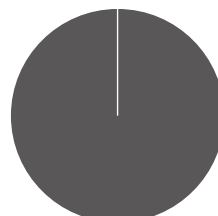
その他
100.0%

◆国別配分



その他
100.0%

◆通貨別配分



その他
100.0%

(注1) 比率は償還時における純資産総額に対する割合です。

(注2) 現金等はその他として表示しています。

純資産等

項目	第118期末	第119期末	償還時
	2019年11月25日	2019年12月23日	2020年1月23日
純資産総額	70,609,853円	71,010,339円	58,522,628円
受益権総口数	116,650,602口	115,736,519口	95,588,145口
1万口当たり基準（償還）価額	6,053円	6,136円	6,122.37円

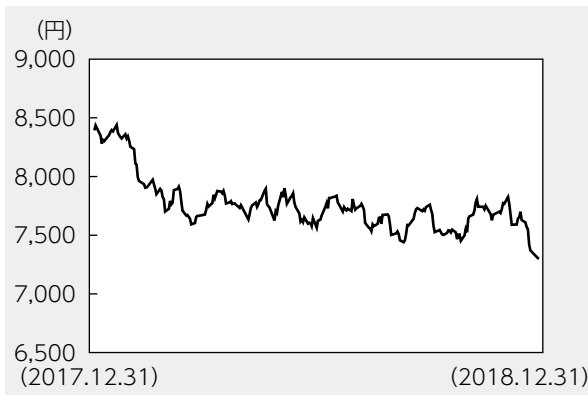
(注) 第118期～償還時における追加設定元本額は138,648円、同解約元本額は24,051,752円です。

組入ファンドの概要

※償還時における組入ファンドはありません。

【ダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス (AUD)】（計算期間 2018年1月1日～2018年12月31日）

◆基準価額の推移



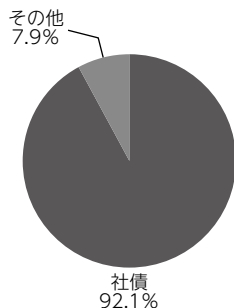
◆組入上位10銘柄

銘柄名	通貨	比率
SKANDINAV ENSKI 05/28/26	ユーロ	3.6%
STANDARD CHART 3.63% 11/23/22	ユーロ	3.6
BPCE 4.63% 07/18/23	ユーロ	3.5
CREDIT AGRICOLE 7.38% 12/18/23	イギリス・ポンド	3.2
SANTANDER ISSUA 2.50% 03/18/25	ユーロ	3.1
SWEDBANK AB FXtoVA 11/22/27 EMTN	ユーロ	3.0
KBC GROUP NV FXtoVA 09/18/29 EMTN	ユーロ	3.0
BANQ FED CRD MU 3.00% 05/21/24	ユーロ	2.9
ABN AMRO BANK N 7.125% 07/06/2022	ユーロ	2.8
SOCIETE GENERAL 4.00% 06/07/23	ユーロ	2.6
組入銘柄数	48銘柄	

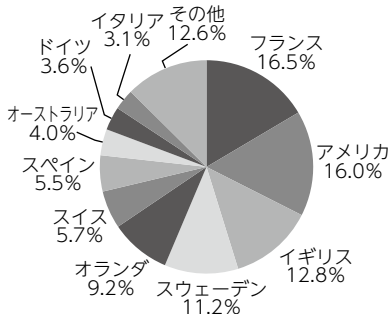
◆1口当たりの費用明細

費用明細については開示されていないため、掲載しておりません。

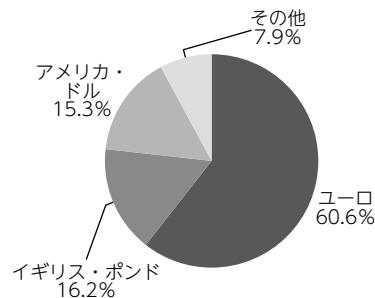
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分

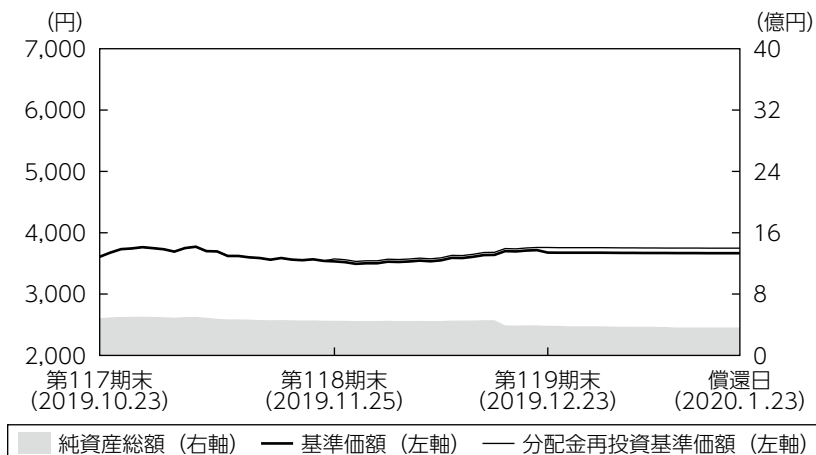


- (注1) 基準価額の推移はダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス (AUD) の計算期間（決算日が休日の場合は前営業日まで）のもので、また、分配金を再投資したものとアセットマネジメントOneが作成したものです。
- (注2) 組入上位10銘柄、資産別配分、国別配分、通貨別配分については、ダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンドの決算日（決算日が休日の場合は前営業日）現在の状況を表示しております。なお、組入外貨建資産については、ダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス (AUD) において、「原資産通貨」を売り予約し、豪ドルを買い予約する為替取引を行っています。
- (注3) 比率はダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンドの純資産総額に対する組入有価証券評価額の割合です。
- (注4) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。
- (注5) 国別配分については、上位11位以下をその他に含めて集計しています。
- (注6) 組入上位10銘柄、資産別配分、国別配分、通貨別配分のデータは、管理事務代行会社であるMizuho Bank(USA)のデータを基にアセットマネジメントOneが作成したものです。組入全銘柄や費用の総額に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

D I A Mマネーマザーファンドの概要については、11ページをご覧ください。

運用経過の説明

基準価額等の推移



第118期首： 3,608円
 償還日： 3,666.93円
 (既払分配金80円)
 騰落率： 3.9%
 (分配金再投資ベース)

- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
 (注3) 分配金再投資基準価額は、期首の基準価額に合わせて指数化しています。
 (注4) 当ファンドはベンチマークを定めておりません。

基準価額の主な変動要因

当作成期については、ハイブリッド証券は米中通商協議の進展、英国総選挙での保守党勝利などを背景に投資家のリスク選好姿勢が強まったことから信用スプレッドが縮小したものの、主要先進国の国債利回りが上昇（価格は下落）したため、概ね横ばいとなりました。ブラジルリアルは、投資家のリスク選好姿勢が強まったこと等から対円で上昇し、プラスに寄与しました。また、ブラジルリアルでの為替取引においてプレミアム（ブラジルと日本の金利差相当分の収益）を獲得したこともプラスに寄与しました。

また、当ファンドは設定来で61.3%上昇しました（分配金再投資ベース、設定来の分配金9,870円）。ハイブリッド証券は、信用スプレッドが縮小するとともに、世界的な金利低下を背景に債券価格が上昇したことがプラスに寄与しました。ブラジルリアルは、国内景気の低迷と長期に亘る継続的な政策金利の引き下げ、年金改革問題を巡る政治情勢の混乱などから対円で下落し、マイナスに寄与しましたが、ブラジルリアルでの為替取引においてプレミアム（ブラジルと日本の金利差相当分の収益）を獲得したことはプラスに寄与しました。

◆組入ファンドの当作成期間の騰落率

組入ファンド	騰落率
ダイヤモンドファイナンシャルセキュリティーズファンドクラス (BRL)	4.1%
DIAMマネーマザーファンド	△0.1%

- (注1) ダイヤモンドファイナンシャルセキュリティーズファンドクラス (BRL) の騰落率は、分配金を再投資したものとみなして計算したものです。
 (注2) 組入ファンドの騰落率は、当ファンドが保有していた期間（ダイヤモンドファイナンシャルセキュリティーズファンドクラス (BRL) は2020年1月14日まで、DIAMマネーマザーファンドは2020年1月17日まで）の騰落率です。

1 万口当たりの費用明細

項目	第118期～第120期 (2019年10月24日 ～2020年1月23日)		項目の概要
	金額	比率	
	(a) 信託報酬	13円	
(投信会社)	(5)	(0.127)	
(販売会社)	(8)	(0.207)	
(受託会社)	(0)	(0.011)	
合計	13	0.345	

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

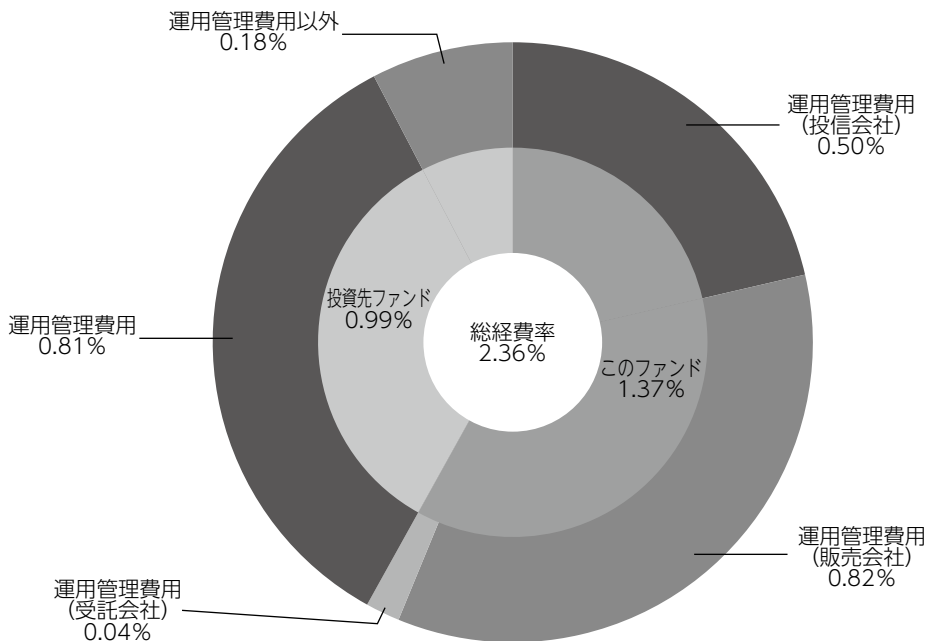
(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(注4) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く）が支払った費用を含みません。

(参考情報)

◆総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は2.36%です。



総経費率 (①+②+③)	2.36%
①このファンドの費用の比率	1.37%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.81%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.18%

(注1) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

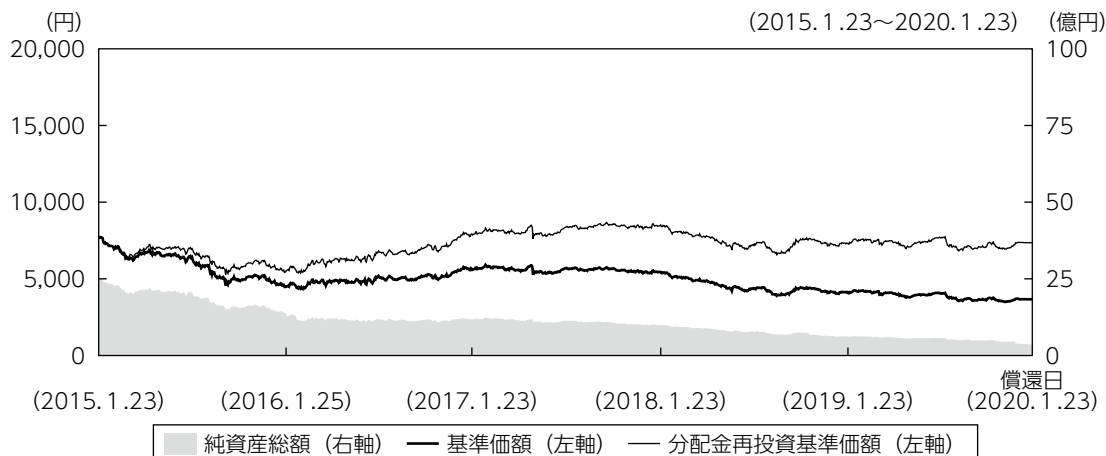
(注4) 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

最近5年間の基準価額等の推移



(注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

(注3) 分配金再投資基準価額は、2015年1月23日の基準価額に合わせて指数化しています。

	2015年1月23日 期首	2016年1月25日 決算日	2017年1月23日 決算日	2018年1月23日 決算日	2019年1月23日 決算日	2020年1月23日 償還日
基準価額 (分配落) (円)	7,711	4,475	5,644	5,446	4,073	(償還価額) 3,666.93
期間分配金合計 (税引前) (円)	—	1,200	660	600	590	440
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	—	△28.5	43.9	7.5	△14.5	1.0
純資産総額 (百万円)	2,514	1,375	1,190	996	615	364

(注) 当ファンドのコンセプトに適した指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指標を定めておりません。

設定来の投資環境

ハイブリッド証券市場は上昇しました。グローバル経済の緩やかな回復および抑制されたインフレ環境の下、主要先進国の中央銀行が緩和的な金融政策を実施したことを受け、主要先進国の国債利回りは低下しました。米国の主要株価指数が史上最高値の更新を続ける等、投資家のリスクセンチメントが堅調に推移したこと、国債利回りが低下を続ける中で投資家が高い利回りを求める動きが強まったことから、信用スプレッドは縮小しました。

ブラジルリアル/円相場は円高リアル安となりました。前半には、安定的に推移するコモディティ市況、ブラジル中央銀行による政策金利の引き上げ等を背景にリアル高となる局面が見られました。その後、国内景気の低迷と長期に亘る継続的な政策金利の引き下げ、年金改革問題を巡る政治情勢の混乱、米中貿易摩擦等の地政学リスクの高まり等がマイナス材料となり、ブラジルリアルは対円で下落しました。

国内短期金融市場では、3ヵ月物国庫短期証券利回りは△0.4%台から0.1%台で推移しました。日銀はリーマンショック以降の景気低迷を受けて金融緩和政策を続けており、長短金利ともに低下傾向で推移しました。さらに2016年にはマイナス金利政策が導入されたことで、短期金利には一段と低下圧力がかかることになりました。

設定来のポートフォリオについて

●当ファンド

ダイアム フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス (BRL) の組入比率は原則として高位を維持し、DIAMマネーマザーファンドへの投資も行いました。

●ダイアム フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス (BRL)

世界の主要金融機関が発行するハイブリッド証券を中心にポートフォリオを構成しました。投資方針については、発行体の業績動向や信用力に加えて、ハイブリッド証券特有のリスクを評価し、分散投資を基本としました。国別配分においては、クレジットの安定的な発行体の多い、フランス・米国・英国のウェイトを高く維持しました。債券種別においては、期限付劣後債中心のポートフォリオとしました。

また、ユーロ、米ドルなど複数通貨（以下、「原資産通貨」といいます。）を売り予約し、ブラジルリアルを買い予約する為替取引を行いました。

●DIAMマネーマザーファンド

残存期間の短い国債や政府保証債、地方債などで運用を行いました。

■ 分配金

当作成期の収益分配金につきましては運用実績等を勘案し、以下の表の通りとさせていただきます。なお、収益分配金に充てなかった利益は信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたしました。

■ 分配原資の内訳（1万口当たり）

項目	第118期	第119期
	2019年10月24日 ～2019年11月25日	2019年11月26日 ～2019年12月23日
当期分配金（税引前）	40円	40円
対基準価額比率	1.12%	1.08%
当期の収益	40円	40円
当期の収益以外	-円	-円
翌期繰越分配対象額	1,384円	1,391円

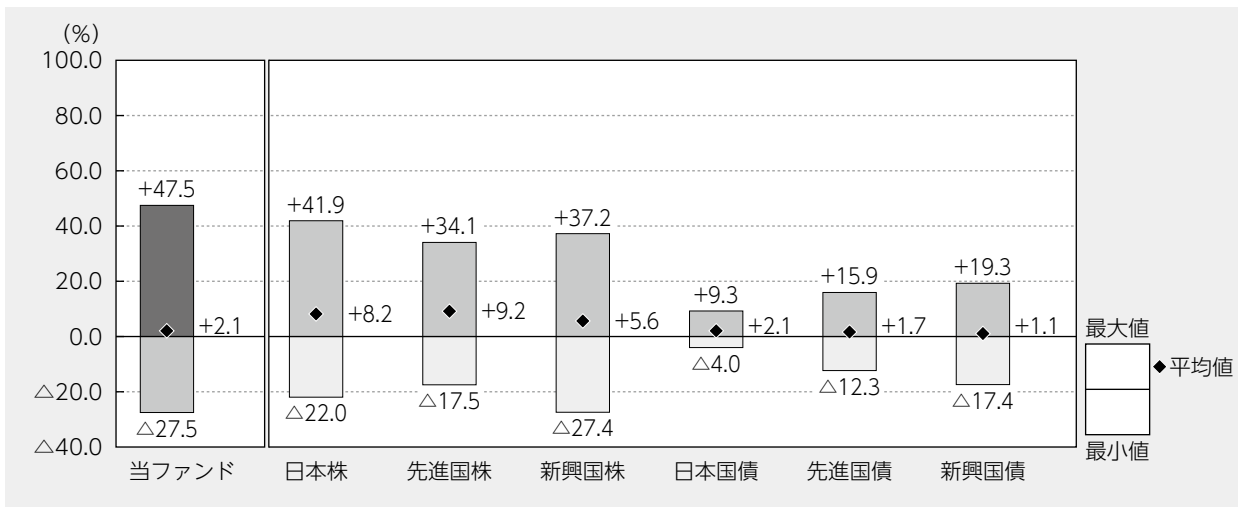
- (注1) 「当期の収益」および「当期の収益以外」は、小数点以下切捨てで算出しているためこれらを合計した額と「当期分配金（税引前）」の額が一致しない場合があります。
- (注2) 当期分配金の「対基準価額比率」は「当期分配金（税引前）」の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。また、小数点第3位を四捨五入しています。
- (注3) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益（含、評価益）」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備積立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

このたび償還を迎えるにあたりまして、当ファンドへのご愛顧に心より感謝申し上げますとともに、今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／債券
信託期間	2010年1月20日から2020年1月23日までです。
運用方針	信託財産の成長を図ることを目的として、積極的な運用を行います。
主要投資対象	主として円建ての外国投資信託である「ダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス (B R L)」の投資信託証券へ投資を行います。また、証券投資信託である「D I A Mマネーマザーファンド」受益証券への投資も行います。なお、短期金融商品等に直接投資する場合があります。
運用方法	<p>主として円建ての外国投資信託への投資を通じて、先進国の金融機関(*1)が発行したハイブリッド証券(*2)に実質的な投資を行います。外国投資信託への投資比率は、原則として高位を保ちます。</p> <p>(*1) 金融機関に関連する特別目的会社を含みます。</p> <p>(*2) ハイブリッド証券とは、普通社債と株式の中間的特性を有する有価証券であり、劣後債、優先出資証券などをいいます。</p> <p>外国投資信託においては、ユーロ、米ドルなど複数通貨(以下、「原資産通貨」といいます。)建てのハイブリッド証券に投資しますが、この「原資産通貨」を売り予約し、ブラジルレアルを買い予約する為替取引を行います。</p>
分配方針	<p>決算日(原則として毎月23日。休業日の場合は翌営業日。)に、経費控除後の利子配当等収益および売買益(評価益を含みます。)等の全額を分配対象額とし、基準価額水準、市況動向等を勘案して、分配金額を決定します。原則として利子配当等収益等を中心に安定分配を行うことを基本とします。ただし、分配対象額が少額の場合は分配を行わない場合があります。また、毎年1月および7月の決算時には、上記安定分配相当額に委託会社が決定する額を付加して分配する場合があります。</p> <p>「原則として利子配当等収益等を中心に安定分配を行う」方針としていますが、これは、運用による収益が安定したものになることや基準価額が安定的に推移すること等を示唆するものではありません。また、基準価額の水準、運用の状況等によっては安定分配とならない場合があることにご留意ください。</p>

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



2015年1月～2019年12月

(注1) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を、ファンドおよび代表的な資産クラスについて表示し、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。なお、上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注3) 当ファンドの騰落率は、税引前の分配金を再投資したものと計算しています。

*各資産クラスの指数

日本株…東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株…MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株…MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債…NOMURA-BPI国債

先進国債…FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債…JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースィファイド（円ベース）

（注）海外の指数は為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

※各指数については後掲の＜代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について＞をご参照ください。

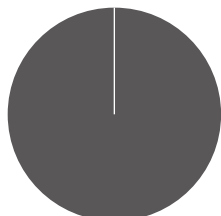
当ファンドのデータ

当ファンドの組入資産の内容（2020年1月23日現在）

世界ハイブリッド証券ファンド通貨選択シリーズ（毎月分配型）＜ブラジルリアルコース＞

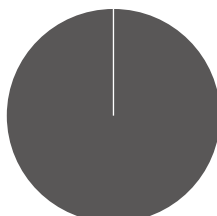
当ファンドに組入れておりました有価証券は作成期中に全て売却し、また親投資信託受益証券は作成期中に全て解約いたしました。

◆資産別配分



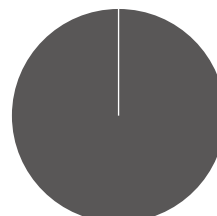
その他
100.0%

◆国別配分



その他
100.0%

◆通貨別配分



その他
100.0%

(注1) 比率は償還時における純資産総額に対する割合です。

(注2) 現金等はその他として表示しています。

純資産等

項目	第118期末	第119期末	償還時
	2019年11月25日	2019年12月23日	2020年1月23日
純資産総額	452,539,799円	385,844,845円	364,127,889円
受益権総口数	1,280,886,951口	1,049,447,221口	993,005,121口
1万口当たり基準（償還）価額	3,533円	3,677円	3,666.93円

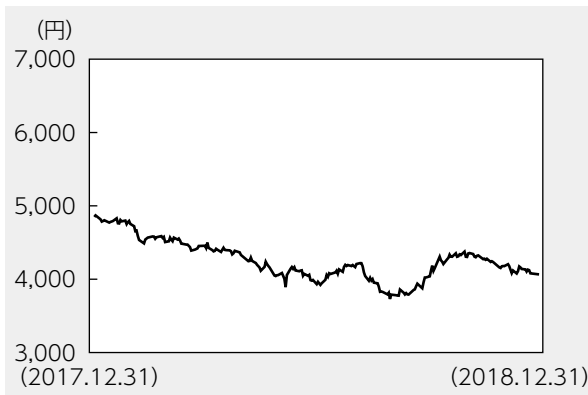
(注) 第118期～償還時における追加設定元本額は10,576,064円、同解約元本額は362,081,905円です。

組入ファンドの概要

※償還時における組入ファンドはありません。

【ダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス (BRL)】（計算期間 2018年1月1日～2018年12月31日）

◆基準価額の推移



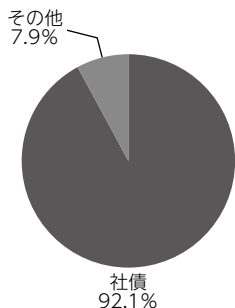
◆組入上位10銘柄

銘柄名	通貨	比率
SKANDINAV ENSKI 05/28/26	ユーロ	3.6%
STANDARD CHART 3.63% 11/23/22	ユーロ	3.6
BPCE 4.63% 07/18/23	ユーロ	3.5
CREDIT AGRICOLE 7.38% 12/18/23	イギリス・ポンド	3.2
SANTANDER ISSUA 2.50% 03/18/25	ユーロ	3.1
SWEDBANK AB FXtoVA 11/22/27 EMTN	ユーロ	3.0
KBC GROUP NV FXtoVA 09/18/29 EMTN	ユーロ	3.0
BANQ FED CRD MU 3.00% 05/21/24	ユーロ	2.9
ABN AMRO BANK N 7.125% 07/06/2022	ユーロ	2.8
SOCIETE GENERAL 4.00% 06/07/23	ユーロ	2.6
組入銘柄数	48銘柄	

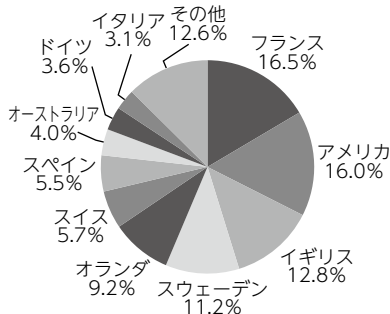
◆1口当たりの費用明細

費用明細については開示されていないため、掲載しておりません。

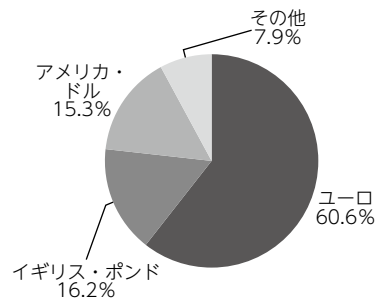
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分

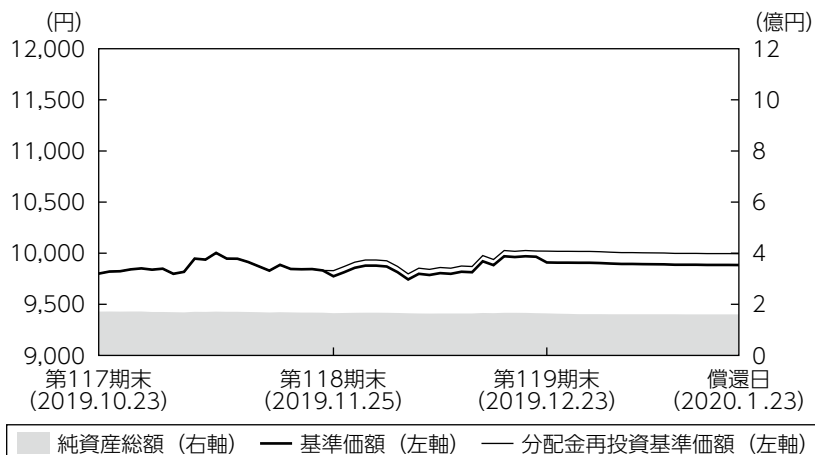


- (注1) 基準価額の推移はダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス (BRL) の計算期間（決算日が休日の場合は前営業日まで）のもので、また、分配金を再投資したものとアセットマネジメントOneが作成したものです。
- (注2) 組入上位10銘柄、資産別配分、国別配分、通貨別配分については、ダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンドの決算日（決算日が休日の場合は前営業日）現在の状況を表示しております。なお、組入外貨建資産については、ダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス (BRL) において、「原資産通貨」を売り予約し、ブラジルリアルを買い予約する為替取引を行っています。
- (注3) 比率はダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンドの純資産総額に対する組入有価証券評価額の割合です。
- (注4) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。
- (注5) 国別配分については、上位11位以下をその他に含めて集計しています。
- (注6) 組入上位10銘柄、資産別配分、国別配分、通貨別配分のデータは、管理事務代行会社であるMizuho Bank(USA)のデータを基にアセットマネジメントOneが作成したものです。組入全銘柄や費用の総額に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

DIAMマネーマザーファンドの概要については、11ページをご覧ください。

運用経過の説明

基準価額等の推移



第118期首： 9,800円
 償還日： 9,883.91円
 (既払分配金110円)
 騰落率： 2.0%
 (分配金再投資ベース)

- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、期首の基準価額に合わせて指数化しています。
- (注4) 当ファンドはベンチマークを定めておりません。

基準価額の主な変動要因

当作成期については、ハイブリッド証券は米中通商協議の進展、英国総選挙での保守党勝利などを背景に投資家のリスク選好姿勢が強まったことから信用スプレッドが縮小したものの、主要先進国の国債利回りが上昇（価格は下落）したため、概ね横ばいとなりました。中国元は、投資家のリスク選好姿勢が強まったこと等から対円で上昇し、プラスに寄与しました。また、中国元での為替取引においてプレミアム（中国と日本の金利差相当分の収益）を獲得したこともプラスに寄与しました。

また、当ファンドは設定来で87.5%上昇しました（分配金再投資ベース、設定来の分配金6,435円）。ハイブリッド証券は、信用スプレッドが縮小するとともに、世界的な金利低下を背景に債券価格が上昇したことがプラスに寄与しました。中国元は、中国株式市場の下落、国内景気の減速、資本流出懸念、さらに米中貿易摩擦の激化を受けて対米ドルで下落しましたが、米ドルが対円で上昇したことから、中国元は対円で上昇し、プラスに寄与しました。加えて、中国元での為替取引においてプレミアム（中国と日本の金利差相当分の収益）を獲得したこともプラスに寄与しました。

◆組入ファンドの当作成期間の騰落率

組入ファンド	騰落率
ダイヤモンドフィナンシャルセキュリティーズファンドクラス(CNY)	2.4%
DIAMマネーマザーファンド	△0.1%

- (注1) ダイヤモンドフィナンシャルセキュリティーズファンドクラス(CNY)の騰落率は、分配金を再投資したものとみなして計算したものです。
- (注2) 組入ファンドの騰落率は、当ファンドが保有していた期間（ダイヤモンドフィナンシャルセキュリティーズファンドクラス(CNY)は2020年1月14日まで、DIAMマネーマザーファンドは2020年1月17日まで）の騰落率です。

1 万口当たりの費用明細

項目	第118期～第120期 (2019年10月24日 ～2020年1月23日)		項目の概要
	金額	比率	
	(a) 信託報酬	34円	
(投信会社)	(13)	(0.127)	
(販売会社)	(20)	(0.207)	
(受託会社)	(1)	(0.011)	
合計	34	0.345	

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

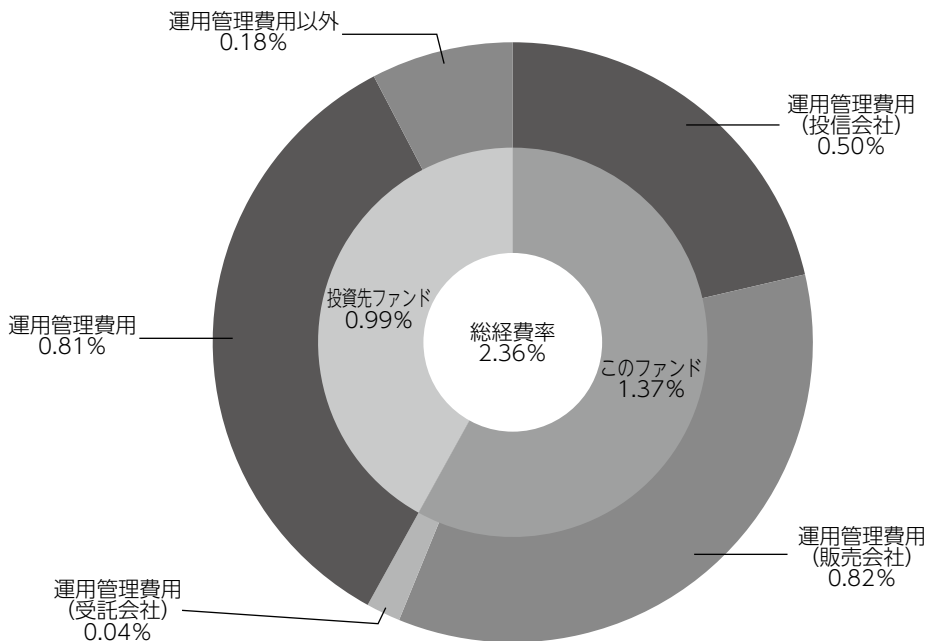
(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(注4) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く）が支払った費用を含みません。

(参考情報)

◆総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は2.36%です。



総経費率 (①+②+③)	2.36%
①このファンドの費用の比率	1.37%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.81%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.18%

(注1) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

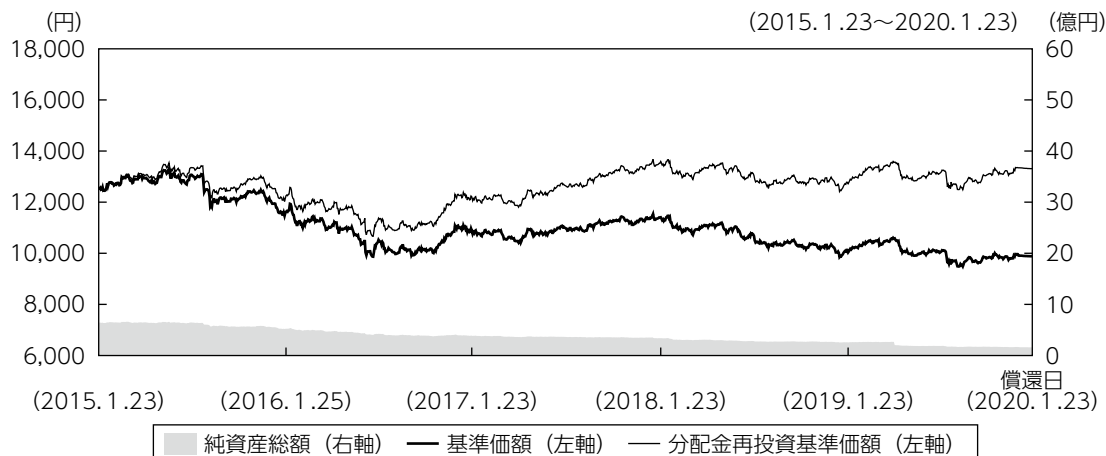
(注4) 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

最近5年間の基準価額等の推移



(注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

(注3) 分配金再投資基準価額は、2015年1月23日の基準価額に合わせて指数化しています。

	2015年1月23日 期首	2016年1月25日 決算日	2017年1月23日 決算日	2018年1月23日 決算日	2019年1月23日 決算日	2020年1月23日 償還日
基準価額 (分配落) (円)	12,531	11,621	10,888	11,410	10,033	(償還価額) 9,883.91
期間分配金合計 (税引前) (円)	—	660	660	660	660	605
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	—	△2.2	△0.3	11.3	△6.4	4.6
純資産総額 (百万円)	642	523	387	339	256	160

(注) 当ファンドのコンセプトに適した指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指標を定めておりません。

設定来の投資環境

ハイブリッド証券市場は上昇しました。グローバル経済の緩やかな回復および抑制されたインフレ環境の下、主要先進国の中央銀行が緩和的な金融政策を実施したことを受け、主要先進国の国債利回りは低下しました。米国の主要株価指数が史上最高値の更新を続ける等、投資家のリスクセンチメントが堅調に推移したこと、国債利回りが低下を続ける中で投資家が高い利回りを求める動きが強まったことから、信用スプレッドは縮小しました。

中国元/円相場は円安中国元高となりました。前半は、高い国内経済成長率、貿易黒字の拡大等が主な要因となり、中国元は対米ドルで上昇しました。その後、中国株式市場の下落、国内景気の減速、資本流出懸念、さらに、米中貿易摩擦の激化を受けて、中国元は対米ドルで下落しました。設定来では、中国元は対米ドルで下落しましたが、実質的に対米ドルでの通貨ペッグ制度を採用する中、米ドルが対円で上昇したことから、中国元は対円で上昇しました。

国内短期金融市場では、3ヵ月物国庫短期証券利回りは△0.4%台から0.1%台で推移しました。日銀はリーマンショック以降の景気低迷を受けて金融緩和政策を続けており、長短金利ともに低下傾向で推移しました。さらに2016年にはマイナス金利政策が導入されたことで、短期金利には一段と低下圧力がかかることになりました。

設定来のポートフォリオについて

●当ファンド

ダイアム フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス (CNY) の組入比率は原則として高位を維持し、D I A Mマネーマザーファンドへの投資も行いました。

●ダイアム フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス (CNY)

世界の主要金融機関が発行するハイブリッド証券を中心にポートフォリオを構成しました。投資方針については、発行体の業績動向や信用力に加えて、ハイブリッド証券特有のリスクを評価し、分散投資を基本としました。国別配分においては、クレジットの安定的な発行体の多い、フランス・米国・英国のウェイトを高く維持しました。債券種別においては、期限付劣後債中心のポートフォリオとしました。

また、ユーロ、米ドルなど複数通貨（以下、「原資産通貨」といいます。）を売り予約し、中国元を買い予約する為替取引を行いました。

●D I A Mマネーマザーファンド

残存期間の短い国債や政府保証債、地方債などで運用を行いました。

■ 分配金

当作成期の収益分配金につきましては運用実績等を勘案し、以下の表の通りとさせていただきます。なお、収益分配金に充てなかった利益は信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたしました。

■ 分配原資の内訳（1万口当たり）

項目	第118期	第119期
	2019年10月24日 ～2019年11月25日	2019年11月26日 ～2019年12月23日
当期分配金（税引前）	55円	55円
対基準価額比率	0.56%	0.55%
当期の収益	55円	55円
当期の収益以外	-円	-円
翌期繰越分配対象額	3,205円	3,214円

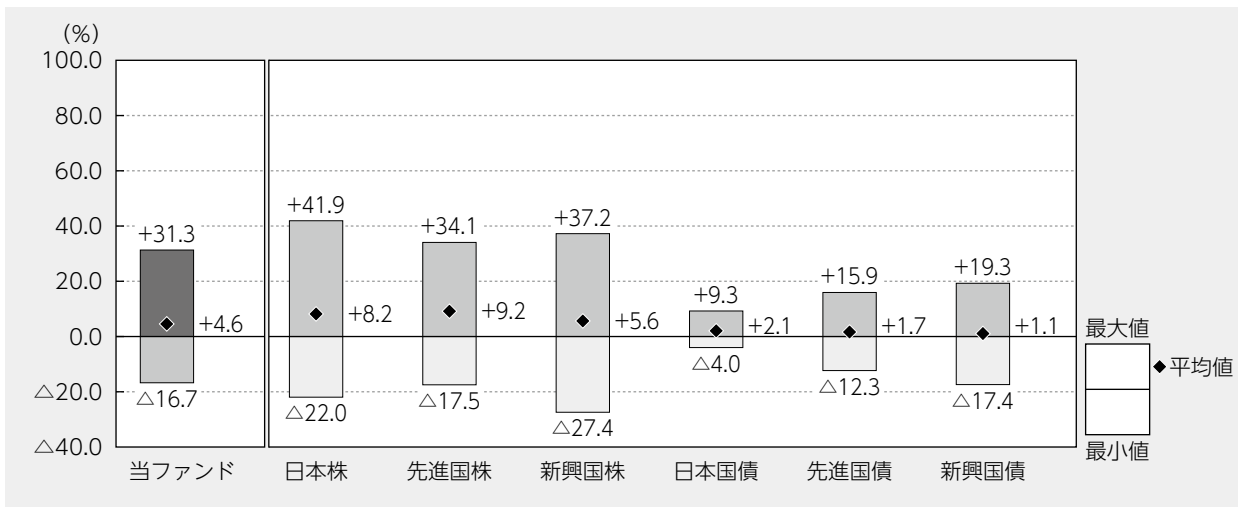
- (注1) 「当期の収益」および「当期の収益以外」は、小数点以下切捨てで算出しているためこれらを合計した額と「当期分配金（税引前）」の額が一致しない場合があります。
- (注2) 当期分配金の「対基準価額比率」は「当期分配金（税引前）」の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。また、小数点第3位を四捨五入しています。
- (注3) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益（含、評価益）」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備積立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

このたび償還を迎えるにあたりまして、当ファンドへのご愛顧に心より感謝申し上げますとともに、今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／債券
信託期間	2010年1月20日から2020年1月23日までです。
運用方針	信託財産の成長を図ることを目的として、積極的な運用を行います。
主要投資対象	主として円建ての外国投資信託である「ダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス (CNY)」の投資信託証券へ投資を行います。また、証券投資信託である「DIAMマネーマザーファンド」受益証券への投資も行います。なお、短期金融商品等に直接投資する場合があります。
運用方法	<p>主として円建ての外国投資信託への投資を通じて、先進国の金融機関(*1)が発行したハイブリッド証券(*2)に実質的な投資を行います。外国投資信託への投資比率は、原則として高位を保ちます。</p> <p>(*1) 金融機関に関連する特別目的会社を含みます。</p> <p>(*2) ハイブリッド証券とは、普通社債と株式の中間的特性を有する有価証券であり、劣後債、優先出資証券などをいいます。</p> <p>外国投資信託においては、ユーロ、米ドルなど複数通貨(以下、「原資産通貨」といいます。)建てのハイブリッド証券に投資しますが、この「原資産通貨」を売り予約し、中国元を買い予約する為替取引を行います。</p>
分配方針	<p>決算日(原則として毎月23日。休業日の場合は翌営業日。)に、経費控除後の利子配当等収益および売買益(評価益を含みます。)等の全額を分配対象額とし、基準価額水準、市況動向等を勘案して、分配金額を決定します。原則として利子配当等収益等を中心に安定分配を行うことを基本とします。ただし、分配対象額が少額の場合は分配を行わない場合があります。また、毎年1月および7月の決算時には、上記安定分配相当額に委託会社が決定する額を付加して分配する場合があります。</p> <p>「原則として利子配当等収益等を中心に安定分配を行う」方針としていますが、これは、運用による収益が安定したものになることや基準価額が安定的に推移すること等を示唆するものではありません。また、基準価額の水準、運用の状況等によっては安定分配とならない場合があることにご留意ください。</p>

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



2015年1月～2019年12月

(注1) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を、ファンドおよび代表的な資産クラスについて表示し、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。なお、上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注3) 当ファンドの騰落率は、税引前の分配金を再投資したものと計算しています。

*各資産クラスの指数

日本株…東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株…MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株…MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債…NOMURA-BPI国債

先進国債…FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債…JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースィファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

※各指数については後掲の＜代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について＞をご参照ください。

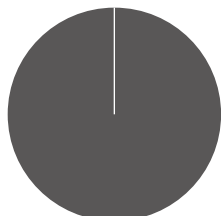
当ファンドのデータ

当ファンドの組入資産の内容（2020年1月23日現在）

世界ハイブリッド証券ファンド通貨選択シリーズ（毎月分配型）＜中国元コース＞

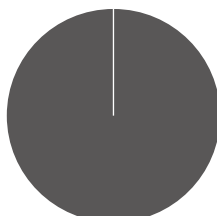
当ファンドに組入れておりました有価証券は作成中に全て売却し、また親投資信託受益証券は作成中に全て解約いたしました。

◆資産別配分



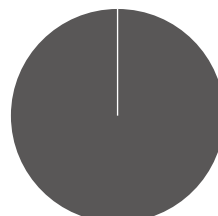
その他
100.0%

◆国別配分



その他
100.0%

◆通貨別配分



その他
100.0%

(注1) 比率は償還時における純資産総額に対する割合です。

(注2) 現金等はその他として表示しています。

純資産等

項目	第118期末	第119期末	償還時
	2019年11月25日	2019年12月23日	2020年1月23日
純資産総額	165,316,557円	164,544,432円	160,586,381円
受益権総口数	169,145,354口	166,056,817口	162,472,576口
1万口当たり基準（償還）価額	9,774円	9,909円	9,883.91円

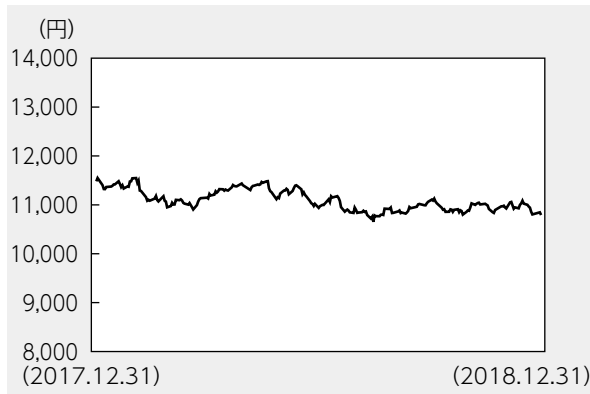
(注) 第118期～償還時における追加設定元本額は439,394円、同解約元本額は12,829,725円です。

組入ファンドの概要

※償還時における組入ファンドはありません。

【ダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス (CNY)】（計算期間 2018年1月1日～2018年12月31日）

◆基準価額の推移



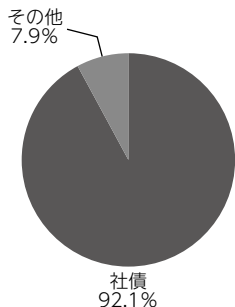
◆組入上位10銘柄

銘柄名	通貨	比率
SKANDINAV ENSKI 05/28/26	ユーロ	3.6%
STANDARD CHART 3.63% 11/23/22	ユーロ	3.6
BPCE 4.63% 07/18/23	ユーロ	3.5
CREDIT AGRICOLE 7.38% 12/18/23	イギリス・ポンド	3.2
SANTANDER ISSUA 2.50% 03/18/25	ユーロ	3.1
SWEDBANK AB FXtoVA 11/22/27 EMTN	ユーロ	3.0
KBC GROUP NV FXtoVA 09/18/29 EMTN	ユーロ	3.0
BANQ FED CRD MU 3.00% 05/21/24	ユーロ	2.9
ABN AMRO BANK N 7.125% 07/06/2022	ユーロ	2.8
SOCIETE GENERAL 4.00% 06/07/23	ユーロ	2.6
組入銘柄数	48銘柄	

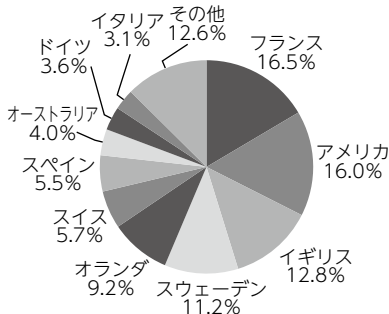
◆1口当たりの費用明細

費用明細については開示されていないため、掲載しておりません。

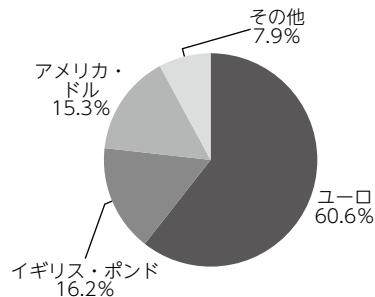
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



- (注1) 基準価額の推移はダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス (CNY) の計算期間（決算日が休日の場合は前営業日まで）のもので、また、分配金を再投資したものとアセットマネジメントOneが作成したものです。
- (注2) 組入上位10銘柄、資産別配分、国別配分、通貨別配分については、ダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンドの決算日（決算日が休日の場合は前営業日）現在の状況を表示しております。なお、組入外貨建資産については、ダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス (CNY) において、「原資産通貨」を売り予約し、中国元を買い予約する為替取引を行っています。
- (注3) 比率はダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンドの純資産総額に対する組入有価証券評価額の割合です。
- (注4) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。
- (注5) 国別配分については、上位11位以下をその他に含めて集計しています。
- (注6) 組入上位10銘柄、資産別配分、国別配分、通貨別配分のデータは、管理事務代行会社であるMizuho Bank(USA)のデータを基にアセットマネジメントOneが作成したものです。組入全銘柄や費用の総額に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

D I A Mマネーマザーファンドの概要については、11ページをご覧ください。

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

- 「東証株価指数（TOPIX）」は、東京証券取引所第一部に上場されているすべての株式の時価総額を指数化したものです。同指数は、株式会社東京証券取引所（株東京証券取引所）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、(株)東京証券取引所が有しています。
- 「MSCIコクサイ・インデックス」は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、日本を除く世界の主要先進国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「MSCIエマージング・マーケット・インデックス」は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、新興国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「NOMURA-BPI国債」は、野村證券株式会社が国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表すために開発した投資収益指数です。同指数の知的財産権その他一切の権利は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、同指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。
- 「FTSE世界国債インデックス（除く日本）」は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。
- 「JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド」は、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが公表している新興国の現地通貨建ての国債で構成されている時価総額加重平均指数です。同指数に関する著作権等の知的財産その他一切の権利はJ. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。また、同社は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

